

■ 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金 受領株主確定日	3月31日
中間配当金 受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部
公告方法	電子公告により、下記当社ホームページに掲載いたします。なお、やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 電子公告掲載 URL http://cleanup.jp/
単元株式数	100株

【株式に関するお手続きについて】

- 証券会社等の口座に記録された株式
株主様の住所変更、買取・買増請求その他各種お手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社等(口座管理機関)にお問合せください。
- 特別口座に記録された株式
特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、三菱UFJ信託銀行証券代行部までお問合せください。

- 未受領の配当金
未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行証券代行部までお問合せください。

【株主名簿管理人/特別口座の口座管理機関】

三菱UFJ信託銀行株式会社

【同連絡先】

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1
電話:0120-232-711(通話料無料)
郵送先:〒137-8081
新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

■ 単元未満株式をご所有の株主様へ

単元未満株式につきましては、口座管理機関を通じ、当社に対して買取請求または買増請求をすることができます。お手続きの方法等につきましては、口座管理機関(証券会社等または三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部)にお問合せください。

(例)株主様が単元未満株式を90株ご所有の場合



■ 特別口座をご利用の株主様へ

特別口座は証券会社等に開設された口座と異なり、自由な売買ができる口座ではありません。株式の売買等を円滑に実施するため、証券会社等への口座開設および特別口座からの振替手続きをお勧めいたします。お手続きの方法等につきましては、三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部までお問合せください。



キッチンから、笑顔をつくろう

株主の皆さまへ 第65期 報告書

2017年4月1日から 2018年3月31日まで

新たなビジョンに向け、 事業の「変革と創造」に挑戦する

クリナップは、「2015中期経営計画」(2015～2017年度)を当期(2017年度)で終えました。当期の業績は厳しい事業環境の中、中計の目指すべき本格的な構造改革には至らず、大幅な減収減益を余儀なくされました。株主の皆さまには、この場をお借りしてお詫び申し上げます。

この業績低迷の原因を内に求めるなら、技術力や品質の高さを維持しつつも、市場ニーズの変化を的確に汲み取ったマーケティングが十分に行われてこなかったからではないかと、反省しております。

こうした反省をもとに、次期(2018年度)を初年度とする新中計「2018中期経営計画」では、今後クリナップが歩むべき方向や目指す姿を示すビジョンを掲げました。

「2018中期経営計画」は、このビジョンの実現を目指して、事業の「変革と創造」に挑戦する取り組みとなっております。また、今後の“攻めの経営”に向けて、経営体制の更なる強化を図るべく、社長交代も行いました。竹内宏新社長のもと、『暮らし価値創造企業「Cleanup」への変革』を、力強く推し進めてまいります。

株主の皆さまには、引き続き当社の経営にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役会長
井上 強一

■ ビジョン

暮らし価値創造企業 「Cleanup」への変革

私たちCleanupは、「キッチンの専門家」として、キッチン、ダイニング、リビング、サニタリー空間に「新たな暮らし価値」を創造・提案することで世界中のお客様に「感動」をお届けし、いつまでも選ばれ続ける企業を目指します。



“攻めの経営”を推し進める

クリナップの強みを最大限に活かし、 “勝てる会社”へと変革してまいります。

2018年4月1日付にて、代表取締役 社長執行役員の任を拝命し、責任の重さを感じるとともに、必ずやり遂げるという熱い思いが沸き上がっております。

当期の連結業績は、新設住宅着工戸数が減少傾向を辿り、リフォーム需要も力強さを欠くなど、依然として厳しい事業環境が続く中、誠に遺憾ながら減収および大幅減益となりました。

こうした業績低迷状態から早期に脱し、再び“勝てる会社”へと変革していくためには、やはりクリナップの強みである「人財力」、「商品開発力」、「生産技術力」などに、より一層磨きをかけていかなければなりません。特に、「人財力」を最大化させるためには、すべての社員が会社の考えを理解し、同じ方向にベクトルを合わせて取り組んでいくことが必要不可欠です。新中計「2018中期経営計画」においてビジョンを設けたのは、このためです。全社員が目指すべき方向を『暮らし価値創造企業「Cleanup」への変革』と見定め、社員一人ひとりが当事者意識を持って各々の立場で努力を積み重ねていく、そんな強い組織・集団にしていきたいと考えております。



代表取締役
社長執行役員
竹内 宏

2018年3月期の連結決算ハイライト

- 売上高は、システムキッチン[S.S.]と「クリンレディ」が数量・金額とも減少したことなどから、前年同期比5.5%減となりました。
- 利益面では、営業利益が前年同期比79.9%減、経常利益が同76.7%減、親会社株主に帰属する当期純利益が同96.3%減と、各段階利益で大幅減益となりました。



社長インタビュー

事業の「変革と創造」に挑戦する 「2018中期経営計画」を始動いたしました。

「2018中期経営計画」では、事業の「変革と創造」に挑戦してまいります。具体的には、「構造改革」、「成長戦略」、「基盤強化」の3つの取り組みを推し進めます。「構造改革」では、クリナップの屋台骨である既存事業の再構築に重点を置き、また、「成長戦略」では、既存事業の延長線上に新たな収益の柱を育成することに主眼を置いております。そして、「基盤強化」では、「クリナップブランドの回復」に徹底して取り組むことが重要であると考えており、企業ブランドおよび商品ブランドの価値向上策を積極的に展開していく方針です。

富裕層ビジネスへの本格進出、 フラッグシップモデルの刷新など、 思い切った変革を推し進めております。

「2018中期経営計画」における最も大きな「変革と創造」は、商品面での取り組みです。当社は、富裕層ビジネスへの本格進出と商品力の強化を目指して、商品ラインナップの変革に着手しました。具体的にはまず、これまで一部の国産メーカーと海外メーカーで占められていた超高級市場の拡大を見据え、イタリアのラグジュアリーブランド「Valcucine」のプレミアムキッチンハイクラスを投入してまいります。また、ハウスメーカーの富裕層顧客を対象に、オーダーキッチン「PRIMITAGE」を投入します。この2商品に、2月に新発売しました「CENTRO」を合わせ、富裕層市場への進出を図ってまいります。

「Valcucine」社は、1980年の創業以来、富裕層向けに特化した商品を展開しており、現在、世界54カ国に販売拠点を有する世界屈指のプレミアムキッチンメーカーです。当社は、2017年9月

に同社との間で取引契約を締結し、同年12月には国内初の専用ショールームを南青山にオープンしました。

「PRIMITAGE」は、お客さま一人ひとりの一個づくりのニーズに対応することを目指した商品です。ハウスメーカーのモデルハウスに導入し、そこを基点とした提案を行っていく方向で、現在、設置拠点の拡大に努めております。

「CENTRO」は、当社のフラッグシップモデルであり、従来の「S. S.」を刷新した商品です。“キッチンを暮らしの真ん中に”のコンセプトのもと、高いデザイン性と高機能・高品質を兼ね備えた、新しい提案満載の自信作となっており、今後、この「CENTRO」を核に、高級クラスのシェア回復を目指します。

なお、当社では、ビジョンに示す通り、キッチンだけでなく、水まわり全体の「新たな暮らし価値」の創造・提案を目指しており、その一環として、「CENTRO」と同時発売で、サニタリーの分野における高級市場向け商品として「TIARIS」(洗面化粧台)をフルモデルチェンジしております。

“挑戦し続ける熱意”をもって、 目標達成に邁進してまいります。

事業環境は、新設住宅着工戸数やリフォーム市場の伸び悩みが続くことが懸念されるなど、不透明感を払拭できない状況にあります。そうした中、クリナップは、「2018中期経営計画」に基づき、「変革と創造」を積極果敢に推し進めてまいります。これにより、既存分野では事業の深耕を図ってシェアアップを果たすと同時に、新規分野の開拓にもチャレンジし、「キッチンの専門家」として水まわり全般を包含する事業の新たな広がりを追求してまいります。

全社一丸となり“挑戦し続ける熱意”をもって、目標達成に向け邁進してまいります。

株主の皆さまには、引き続きクリナップの経営にご理解をいただき、ご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

「2018中期経営計画」の概要

創業70周年、 そしてその先へ

私たちCleanupは、
事業の「変革と創造」に
挑戦します。

構造改革	1 中高級市場でのシェアアップ
	2 低収益構造からの転換
成長戦略	3 第2の事業の柱構築
	4 M&Aと業務提携
基盤強化	5 技術力強化
	6 ブランドづくり
	7 人づくり

「2018中期経営計画」における 商品ラインナップの変革

高級・超高級市場への 本格参入に向け、 商品ラインナップを 変革



主なトピックス

二極化する市場環境を睨み、高級・超高級市場向け、富裕層向けビジネスの展開を本格化

高級価格帯フラッグシップ商品「S.S.」を新ブランド「CENTRO(セントロ)」へフルモデルチェンジ

高級価格帯フラッグシップブランド
セントロ誕生

CENTRO

2018.2.1
受注開始



“キッチン暮らしの真ん中に”のコンセプトのもと
「ゆとりある暮らしを楽しむキッチン」として誕生

CENTROの特長

キッチンに要求される「核心」を突き詰めた技術の結晶

センターポジション設計

調理器具や調味料などを、頻度や作業の面から収納ゾーンごとに分け、スペースのムダや動きの負荷を軽減する快適な収納提案(ゾーンコンセプト)がさらに進化



ダブルツールコンテナ

クラフツマンシップ

「永く使っていただきたい」そんな想いを込め、クラフツマン(職人)が手作業でイチから作り上げていくクリナップ技術の最高峰



作業スペースを2倍に拡大

直接水で流せる
高い清掃性

インテリアと調和する “キューブ(箱)デザイン”

キッチン全体を直線と平面でフラットに仕上げ、リビング空間で収まりの良い形に



サニタリー商品も、高級市場向けにフルモデルチェンジ

TIARIS

美しさと機能性が進化!
安全で快適な洗面空間を提案「新TIARIS」

2018.2.1
受注開始



5年ぶりとなる今回のモデルチェンジでは、「ステンレスキャビネット」「流レールボール」を標準装備する機能性向上に加え、要望が多かった大間口への対応が可能になりました。また、鏡に2本のLED照明を埋め込んだ「ビテラスミラーキャビネット」が業界初登場となっております。

TIARISの特長

センターポジション設計

インテリアと調和する
“キューブ(箱)デザイン”

安心・安全な空間提案



富裕層ビジネスの展開を本格化

Valcucine

イタリア・プレミアムキッチンブランドの国内初ショールーム
「Valcucine Tokyo」オープン

2017.12.18
東京・青山

システムキッチンの富裕層市場に向け、国内初となる専用ショールーム「Valcucine Tokyo」を昨年12月18日に東京・南青山にオープンいたしました。イタリアのラグジュアリーブランドICG(イタリアンクリエイショングループ)のValcucineが、富裕層のニーズに応えるべく作り上げたプレミアムキッチンで、ICGの高級家具・照明などで彩られた空間で、心ゆくまで堪能いただけるショールームとなっております。



Genius Loci
(ジーニアスロッチ)



Artematica
(アルテマティカ)

Valcucine社の概要

- 1980年、イタリアボルデネにて創業
- 世界の富裕層向けのプレミアムキッチンを展開
- 革新的かつ環境にやさしいキッチンメーカーとして有名
- 世界54か国に販売拠点
- 2017年9月に当社と取引契約締結

Valcucine Tokyo

- 東京都港区南青山4-1-12 1階
- 営業時間: 平日10:00~17:00(完全予約制)
- 当面はハウスメーカー・デベロッパーを主に、完全予約制で運営



連結ハイライト情報／連結部門別情報

■ 連結財務ハイライト

(百万円)

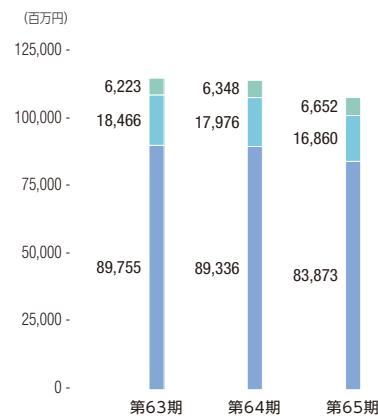
	第63期 2016年3月期	第64期 2017年3月期	第65期 2018年3月期
売上高	114,445	113,661	107,386
営業利益	1,129	1,989	398
経常利益	867	1,795	418
親会社株主に帰属する当期純利益	340	1,339	49
総資産	85,871	84,369	83,898
純資産	55,773	52,615	52,346

■ 部門別売上高(連結)

(百万円)

	第63期 2016年3月期	第64期 2017年3月期	第65期 2018年3月期
厨房部門	89,755	89,336	83,873
浴槽・洗面部門	18,466	17,976	16,860
その他	6,223	6,348	6,652
合計	114,445	113,661	107,386

■ 厨房部門 ■ 浴槽・洗面部門 ■ その他



厨房部門の主な商品

高級品クラスのシステムキッチン「S.S.」、中・高級品クラスの「クリンレディ」、普及品クラスの「ラクエラ」、マンション向けシステムキッチン、セクショナルキッチン等で構成されています。

浴槽・洗面部門の主な商品

中・高級品クラスのシステムバスルーム「アクリアバス」、普及品クラスの「ユアシス」等の浴槽関連商品と、洗面化粧台等で構成されています。

第65期の営業概況

市場環境

当連結会計年度におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善を背景に緩やかな回復基調で推移したものの、不安定な海外経済や金融資本市場の変動等もあり、先行き不透明な状況が継続いたしました。

住宅設備機器業界におきましては、新設住宅着工戸数が減少傾向で推移したのに加え、リフォーム需要も力強さを欠き、依然として厳しい環境が続いております。

業績・成果

このような中、当社グループは、2018年2月に高いデザイン性とステンレス加工技術が光る最高級システムキッチン「CENTRO(セントロ)」や洗面化粧台「TIARIS(ティアリス)」を新発売するなど、付加価値の高い商品を市場に提供してまいりました。

販売面では、大切な顧客接点であるショールームでの価値提供強化を図るため、2017年9月に首都圏リフォームに重点を置いた江戸川ショールームを新設いたしました。また、全国103カ所となったショールームにてイベントを開催し、当社の会員登録制組織「水まわり工

房」加盟店をはじめとした流通パートナーとの連携も深めながら、需要の拡大、獲得に努めてまいりました。

生産面では、東西の生産拠点での生産性向上、VE活動(*)を推進し、原価低減に努めてまいりました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は、前年同期比5.5%減の1,073億86百万円となりました。利益面では営業利益は3億98百万円、経常利益は4億18百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は49百万円となりました。

*VE活動: VE(Value Engineering)は、商品・サービスの期待される機能・価格を最低コストで確実に達成するための技術であり、VE活動は生産の現場におけるVE実現に向けた取り組み。

第65期の部門別の状況

部門別にみますと、厨房部門では、システムキッチン「S.S.」は数量、金額とも減、「クリンレディ」は数量、金額とも減、「ラクエラ」は数量減、金額増となりました。この結果、厨房部門の売上高は前年同期比6.1%減の838億73百万円となりました。

浴槽・洗面部門では、システムバスルーム「アクリアバス」は数量、金額とも減、「ユアシス」は数量、金額とも増、洗面化粧台においては数量、金額とも減となりました。この結果、浴槽・洗面部門の売上高は前年同期比6.2%減の168億60百万円となりました。

連結財務諸表

■ 連結貸借対照表の要旨

(百万円)

流動資産 流動資産は前期末比24億36百万円減少し510億61百万円となりました。これは電子記録債権が27億85百万円増加した一方、現金及び預金が11億90百万円、受取手形及び売掛金が27億32百万円、商品及び製品が1億50百万円、有価証券が9億96百万円減少したこと等によります。

固定資産 固定資産は前期末比19億65百万円増加し328億36百万円となりました。これは無形固定資産が1億50百万円減少した一方、有形固定資産が8億39百万円、投資その他の資産が12億77百万円増加したことによります。

資産合計 総資産は前期末比4億70百万円減少し838億98百万円となりました。

	第64期 2017年3月31日現在	第65期 2018年3月31日現在
(資産の部)		
流動資産	53,498	51,061
現金及び預金	20,896	19,706
受取手形及び売掛金	17,720	14,988
電子記録債権	8,694	11,480
その他	6,187	4,886
貸倒引当金	△ 4	—
固定資産	30,870	32,836
有形固定資産	21,257	22,096
建物及び構築物	8,911	8,561
土地	7,028	7,027
その他	5,316	6,507
無形固定資産	2,830	2,679
投資その他の資産	6,782	8,060
投資有価証券	4,119	5,223
その他	2,717	2,891
貸倒引当金	△ 54	△ 54
資産合計	84,369	83,898

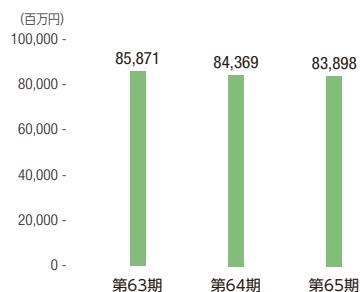
	第64期 2017年3月31日現在	第65期 2018年3月31日現在
(負債の部)		
流動負債	23,282	24,339
買掛金	6,557	6,373
電子記録債務	5,202	6,219
短期借入金(1年内返済予定の長期借入金含む)	3,379	4,659
その他	8,142	7,087
固定負債	8,470	7,211
長期借入金	3,962	1,292
退職給付に係る負債	1,081	915
役員退職慰労引当金	416	416
その他	3,008	4,586
負債合計	31,753	31,551
(純資産の部)		
株主資本	50,897	50,211
資本金	13,267	13,267
資本剰余金	12,351	12,351
利益剰余金	29,391	25,276
自己株式	△ 4,113	△ 683
その他の包括利益累計額	1,718	2,135
その他有価証券評価差額金	1,264	1,716
為替換算調整勘定	35	55
退職給付に係る調整累計額	418	363
純資産合計	52,615	52,346
負債純資産合計	84,369	83,898

流動負債 流動負債は前期末比10億57百万円増加し243億39百万円となりました。これは1年内返済予定の長期借入金が増加した一方、買掛金が1億84百万円、未払金が2億96百万円、未払法人税等が3億8百万円、未払消費税等が2億99百万円減少した一方、短期借入金が増加した一方、電子記録債務が10億16百万円増加したこと等によります。

固定負債 固定負債は前期末比12億59百万円減少し72億11百万円となりました。これは主にリース債務が13億49百万円増加した一方、長期借入金が増加したこと等によります。

純資産合計 純資産合計は前期末比2億68百万円減少し523億46百万円となりました。これは親会社株主に帰属する当期純利益49百万円、その他有価証券評価差額金の増加4億52百万円、配当金の支払い7億37百万円等によります。この結果、自己資本比率は、前期末と同じく62.4%になりました。

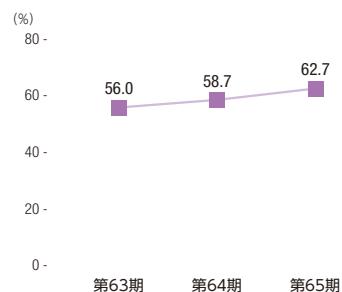
■ 資産合計



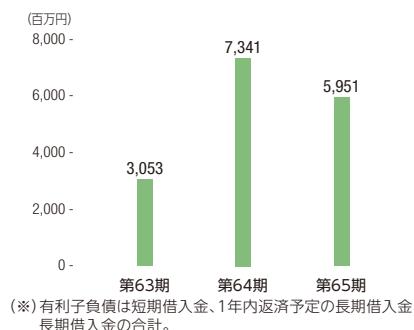
■ 固定資産



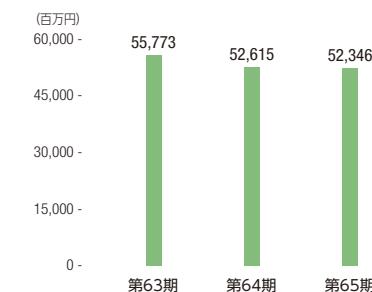
■ 固定比率



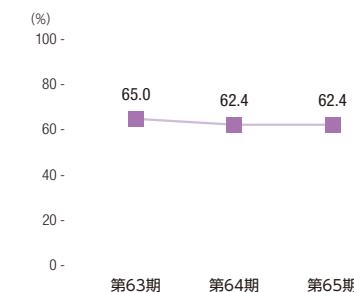
■ 有利子負債



■ 純資産合計



■ 自己資本比率



連結財務諸表

■ 連結損益計算書および連結包括利益計算書の要旨 (百万円)

売上高 厨房部門、浴槽・洗面部門ともに減収となり、売上高は前年同期比5.5%減の1,073億86百万円となりました。

売上原価 原価低減の取り組みによる原価率ダウン等により、売上原価率は前年同期比0.5ポイントダウンし67.0%となりました。

販管費 人件費、物流費が減少する一方で、広告宣伝費が増加となりました。販管費率は前年同期比1.8ポイントアップし32.6%となりました。

営業利益 売上原価率はダウンしたものの、売上減少や販管費率アップ等により、営業利益は前年同期比79.9%減の3億98百万円となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益 親会社株主に帰属する当期純利益は前年同期比96.3%減の49百万円となりました。

	第64期 2016年4月1日～ 2017年3月31日	第65期 2017年4月1日～ 2018年3月31日
(連結損益計算書)		
売上高	113,661	107,386
売上原価	76,687	71,930
売上総利益	36,974	35,455
販売費及び一般管理費	34,985	35,056
営業利益	1,989	398
営業外収益	548	551
営業外費用	742	531
経常利益	1,795	418
特別利益	320	171
特別損失	104	239
税金等調整前当期純利益	2,011	350
法人税等	671	301
当期純利益	1,339	49
(連結包括利益計算書)		
当期純利益	1,339	49
その他の包括利益	143	417
包括利益	1,483	466

■ 連結キャッシュ・フロー計算書の要旨 (百万円)

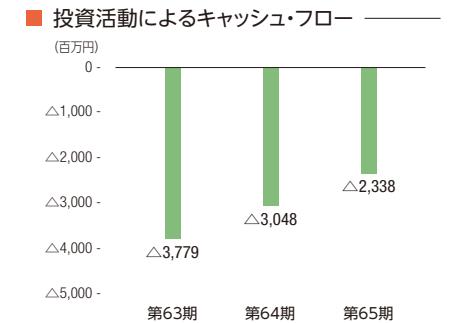
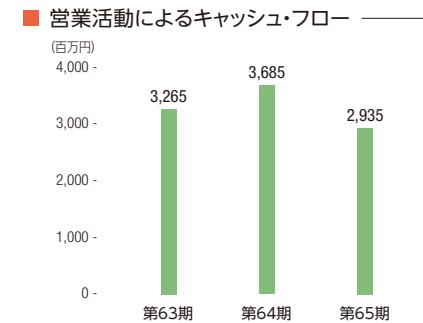
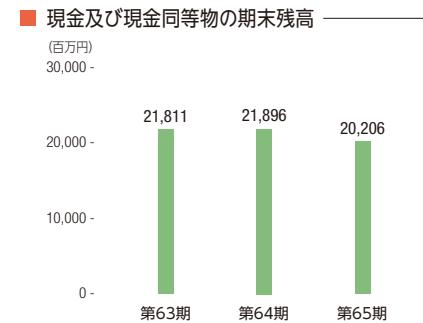
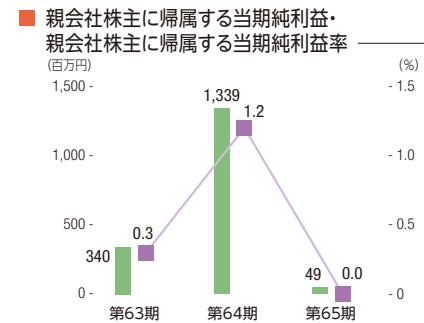
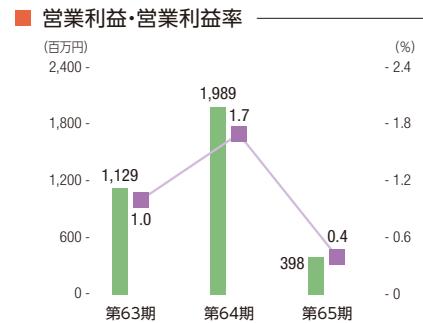
	第64期 2016年4月1日～ 2017年3月31日	第65期 2017年4月1日～ 2018年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,685	2,935
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,048	△ 2,338
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 492	△ 2,307
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 60	20
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	84	△ 1,690
現金及び現金同等物の期首残高	21,811	21,896
現金及び現金同等物の期末残高	21,896	20,206

営業活動によるキャッシュ・フロー
営業活動によって得られた資金は29億35百万円(前年同期比20.4%減)となりました。これは税金等調整前当期純利益が3億50百万円、減価償却費が36億57百万円、仕入債務の増加額8億29百万円等があった一方、退職給付に係る負債の減少額2億54百万円、長期前払費用の増加額3億82百万円、売上債権の増加額2億70百万円、たな卸資産の増加額3億3百万円、未払金の減少額2億28百万円、法人税等の支払額4億87百万円があったこと等によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フロー
投資活動の結果使用した資金は23億38百万円(前年同期比23.3%減)となりました。これは生産設備の更新及び改修、ショールーム移転・改装等の有形固定資産の取得による支出が14億97百万円、情報システム構築に伴う無形固定資産の取得による支出が8億41百万円、投資有価証券の取得による支出が5億41百万円あった一方、有価証券の償還による収入が5億円あったこと等によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フロー
財務活動の結果使用した資金は23億7百万円(前年同期比369.0%増)となりました。これは短期借入金の純増が19億10百万円あった一方、長期借入金の返済による支出が33億89百万円、配当金の支払いが7億37百万円あったこと等によるものです。

現金及び現金同等物の期末残高
これらにより、現金及び現金同等物の期末残高は、前期末に比べ16億90百万円減少して202億6百万円となりました。



株式関連情報 (2018年3月31日現在)

■ 剰余金の配当について

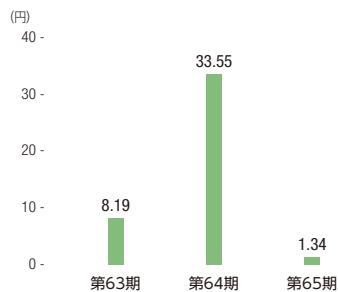
当社は、株主の皆さまに対する利益還元を重要な経営方針の一つと考えております。長期的な安定と成長を実現することにより最大の利益を上げ、安定的な配当を長期的に継続していくことを基本方針としております。

内部留保資金につきましては、新製品生産設備、営業拠点整備、

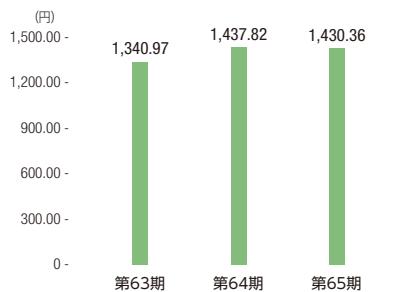
情報基盤整備等の設備投資に充て、効率的な経営による収益力の向上と資本効率の向上に努めてまいります。

なお、期末配当金につきましては、1株当たり10円とし、1株当たり年間20円の普通配当を実施させていただきました。

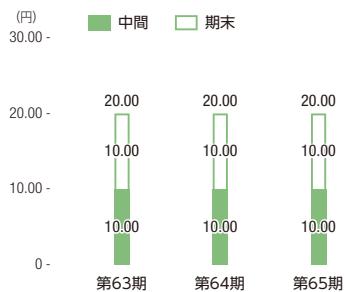
■ 1株当たり純利益



■ 1株当たり純資産額

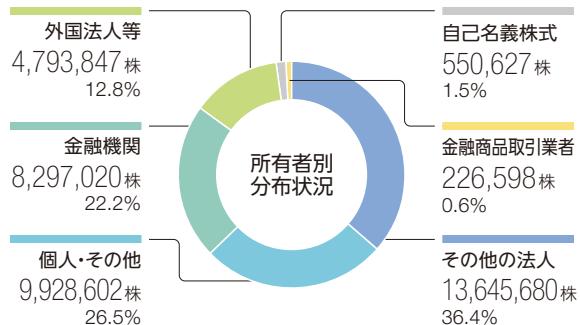


■ 1株当たり配当金



■ 株式の状況

発行可能株式総数 130,000,000 株
 発行済株式総数 37,442,374 株
 株主数 3,797 名



■ 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社井上	8,609	23.3
クリナップ真栄会	1,949	5.2
株式会社タカヤス	1,829	4.9
クリナップ社員持株会	1,695	4.5
クリナップ共進会	1,677	4.5
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,509	4.0
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,073	2.9
株式会社三菱東京UFJ銀行	757	2.0
三菱UFJ信託銀行株式会社	693	1.8
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	625	1.6

(注1) 持株比率は、「株式付与ESOP信託口」が保有する自己株式(294,760株)を除いた自己株式(550,627株)を控除して計算しております。

(注2) 株式会社三菱東京UFJ銀行は、2018年4月1日に、株式会社三菱UFJ銀行に商号を変更しております。

会社情報

■ 会社概要 (2018年3月31日現在)

商号 クリナップ株式会社
 Cleanup Corporation
 本社所在地 〒116-8587
 東京都荒川区西日暮里6丁目22番22号
 電話 03-3894-4771(大代表)
 創業 1949年10月5日
 会社設立 1954年10月5日
 上場 1990年2月6日 東証2部上場
 1991年9月2日 東証1部指定
 資本金 132億6,734万円
 主要営業品目 厨房機器、浴槽機器、洗面機器、その他
 社員数 連結：3,571名/単体：2,956名
 主な事業所 支社：国内3カ所
 支店：国内4カ所
 営業所：国内132カ所(出張所含む)
 海外：香港、台湾、上海
 工場：四倉、鹿島システム、湯本、クレート、鹿島(いずれも福島県いわき市)
 岡山(岡山県勝田郡勝央町)
 津山(岡山県津山市)

■ 役員 (2018年7月1日現在)

代表取締役会長	井上 強一	取締役	川崎 享※
代表取締役社長執行役員	竹内 宏	取締役	千代田有子※
取締役副社長執行役員	小島 輝夫	常勤監査役	山根 康正
取締役専務執行役員	島崎 憲夫	常勤監査役	藤本 真一
取締役専務執行役員	山田 雅二	監査役	新谷 謙一※
取締役専務執行役員	大竹 重雄	監査役	有賀 文宣※
取締役専務執行役員	川田 和弘		

※は社外



■ ショールーム/全国103カ所

北海道支店ブロック 4カ所 中部支店ブロック 12カ所
 東北支店ブロック 13カ所 関西支店ブロック 26カ所
 東京支店ブロック 29カ所 九州支店ブロック 12カ所
 上信越支店ブロック 7カ所

お近くのショールームをホームページでご確認ください。

<http://cleanup.jp/>

※株主・投資家の皆さまに向けたIR情報(決算情報等)を掲載しております。また、「商品情報」をはじめ、ホットな「新着情報」、さらに「生活情報」なども掲載しております。

